

ネットワーク長野県史料協

平成合併後の千曲市における行政史料保存の現状と課題

千曲市教育委員会 矢島 宏雄

千曲市は平成の市町村大合併において、平成15年9月1日、旧更埴市・戸倉町・上山田町が合併し「千曲市」として発足しました。

平成の合併にあたり、本協議会においても、「市町村合併に伴う公文書等の保存を求める要望書」を県下の市町村長・教育委員会教育長宛てに送付したり、「市町村合併と公文書保存」をテーマとした講演会などを行ってきました。

合併以後、どう対応しているのか行政史料保存の現状と課題について、千曲市教育委員会の事例を報告いたします。

1 旧市町所蔵資料

旧更埴市においては、『更埴市史』編纂事業に伴って集められた旧役場文書や、個人所蔵文書の複写資料が保管されていました。

旧戸倉町においても、『戸倉町誌』編纂事業に伴って集められた旧五加村・更級村役場文書、個人所蔵文書複写資料が保管されていました。

旧上山田町については昭和50年、庁舎の火災により書類がほとんど焼失してしまい、一部黒焦げの公文書がわずかと、庁舎外の施設に保管されていた文書が残されただけでした。



整理された五加村・更級村文書

合併後、何が何点あるのかも定かではなく、ましてや活用に供する状態ではなかったので、五加村・更級村文書の目録作りから整理を始めました。この文書整理に臨時職員を1名雇用し、3年を要しました。現在、整理箱368箱に資料8,940点を納め、目録化し整理されています。

平成21年度から始まった緊急雇用創出事業で3名の臨時職員を雇用し、史誌編纂により集められた資料の目録化作業を平成23年度まで継続して行っているところです。

2 千曲市における行政史料保存

各市・町毎に文書管理方法が異なり、合併後も文書管理規定はあるものの、実質的には各担当課において保管しているのが現状です。

「歴史資料として価値を有する公文書」は生涯学習文化課に移管する規定ではありますが、各課担当職員の認識には大きな隔たりがあり、移管された文書は多くはありません。

地方自治体は、法律に基づき事務を行っているのですから、本協議会ははじめ全国歴史資料保存利用機関連絡協議会等で、地方自治体が最低限保存すべき公文書名をリスト化すれば、公文書館等のない市町村においても容易に公文書の保存が図られるものと思われます。

3 行政史料の活用

千曲市においては、まだ整理した非現用公文書をはじめ、市所蔵資料類の公開規定がないので、十分な活用ができない現状です。今後、資料整理に併せ、公開規定の整備も図り、行政資料の積極的な活用ができるよう整備しなければならないことも課題となっています。

第1回文献史料保存活用講習会 報告

伊那市教育委員会 大澤 佳寿子

高遠町図書館には現在約32,000点の古文書、典籍が収蔵されていますが、中でも高遠藩の学問や明治初期の教育事情を考える上で欠かすことのできない史料群があります。それが藩校進徳館に備えられていた進徳館蔵書です。

伊那市高遠町を会場として平成22年6月23日(水)に開催された本年度第1回講習会は、この進徳館蔵書の保存・活用に焦点を当てたものでした。平成22年は進徳館が開校して150年を迎えた記念の年であり、伊那市では年間を通して進徳館を顕彰する様々な事業が行われましたが、今回の講習会に進徳館蔵書が取り上げられたことは伊那市としても大変喜ばしいことでした。

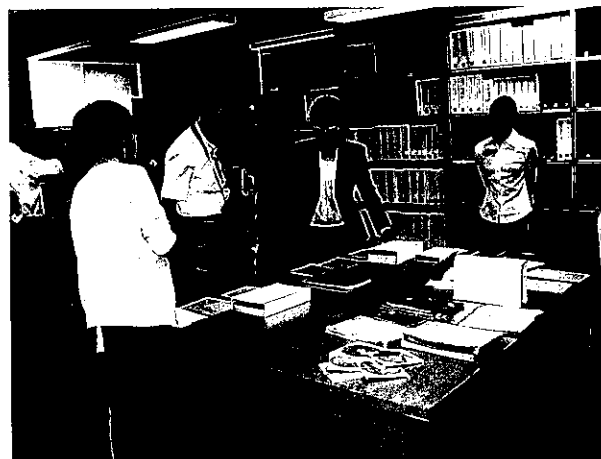


中原長昭氏による講演の様子

講習会では高遠町元教育長の中原長昭先生を講師に招き、「進徳館蔵書本とその活用について」という演題でご講演をいただいた後、進徳館蔵書の保存・活用の状況や、現存する進徳館の建物を見学しました。

進徳館は儒学教育が中心で、伊澤修二、高橋白山、長尾無墨、中村弥六など日本の近代化や信州教育の興隆に尽力した多くの人物を輩出していますが、彼らの学問意欲を支え、人間形成

の糧となったのがこの蔵書でした。しかし、明治維新を迎え進徳館が閉校すると、7,000冊を超える蔵書の所有をめぐる紛争が起り、筑摩県から「争いの原因である図書はすべて県に返納すべし」との命が下ると、借用を許された一部を除く蔵書の大半が県に没収されてしまいました。その後、筑摩県庁に納められた書籍は長野県、長野師範学校を経て信州大学教育学部へ引き継がれていきましたが、高遠町は信州大学に対して返還申し入れを行い、平成14年に信州大学所有の4,390冊が128年ぶりに高遠の地に戻りました。



進徳館蔵書の整理・保存状況の見学

進徳館の教育方針の中には「一、御書籍疎略に取扱間敷事」とあります。紆余曲折を経て高遠に帰ってきた進徳館蔵書ですが、書籍を大事にした進徳館の教育精神に立ち返り、様々な人の想いが込められた進徳館蔵書を今後も大切に活用していきたいと思えます。

第2回文献史料保存活用講習会 報告

高山村教育委員会 松井 明子

今回、はじめて文献史料保存活用講習会に参加させていただきました。麩糊を作る実習から、文書の裏打ちや、文書の破れをつなぐ実習などを行いました。

また、リーフキャストマシンという、紙漉の技術で穴うめ裏打ちをする機械の実演を見ましたが、裏打ちの実習を手作業で行い、その大変さを身をもって体験した後でしたので、この機械を使うことによって手軽に短時間で裏打ちができることに非常に驚きました。

私は、昨年度から高山村の学芸員として新たに採用されました。「一茶ゆかりの里一茶館」「歴史民俗資料館」を中心に、村内にある文化財について、日々勉強をしながら、保存と活用につとめております。

高山村の歴史民俗資料館には、村誌編纂の折に、村内のご家庭から収集したたくさんの古文書を、収蔵庫で保管しております。

これらの古文書の中には、長年一般家庭で保管されていたこともあり、劣化が進んでいるものも多くあります。より長い期間、よい状態で保存するためにも、修復を進めなければならないと感じながら、学芸員が村に一人という状況の中で、修復の方法を学ぶ機会もないまま、後手に回ってしまっていました。しかし、今回実際に穴うめや裏打ちの実習を受けて、すべて修復するのは難しくても、自分のできる範囲からチャレンジしたいと思います。

また、史料の保管方法についても、和紙と酸性紙の違いについてお聞きしたり、参加されていた他の学芸員の方から普段

どのように修復等を進めているかをお聞きすることもでき、実習内容以上に得るものが多くありました。

村に学芸員が一人きりで、日々の業務の中でスキルアップをしていくのは難しいため、今回のような実践的な内容の講習会は、大変貴重な経験でした。講習で学んだことを実務で生かしていくためにも、今回のような講習会に継続的に参加して、修復技法を自分の技術として習得していきたいと思います。

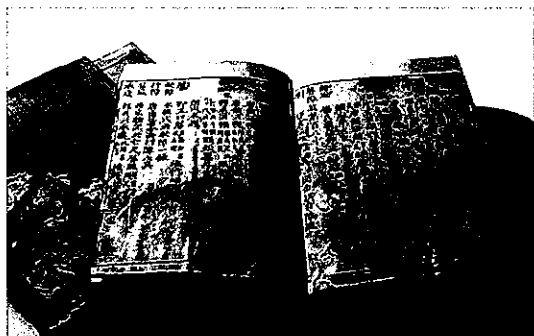


事務局より

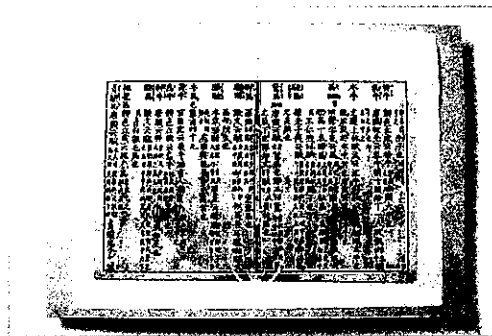
平成22年度第2回文献史料保存活用講習会は昨年度に引き続き、国立公文書館より有友至氏、中嶋郁子氏、阿久津智広氏をお招きし、文献史料の修復技術について、実技指導を含む講習会を実施いたしました。毎年大変好評で、このような講習会を継続してほしいとの声が数多く寄せられています。本年度の講習会では、文献史料修復のために開発された機械の実演がありましたので、全会員の皆様へ、この場で紹介いたします。

リーフキャストマシンは、「紙漉き」の技術を応用して開発されました。

リーフキャストとは、虫損・破損等のある原資料に対して、その欠損部分だけに和紙繊維を埋め込む修復方法です。



修復前の文書



修復後の文書

原資料の後ろに補修紙を糊で貼りつける「裏うち」とは異なり、欠損部分に対してのみ補修を行うため、修復前と比べて資料の厚みがほとんど変わりません。また、裏面が覆われないため、両面記載の資料に対しても有効です。和紙繊維同士の接着には糊を使用しないため、再度水につければ修復前の状態に戻る事も利点として挙げられます。

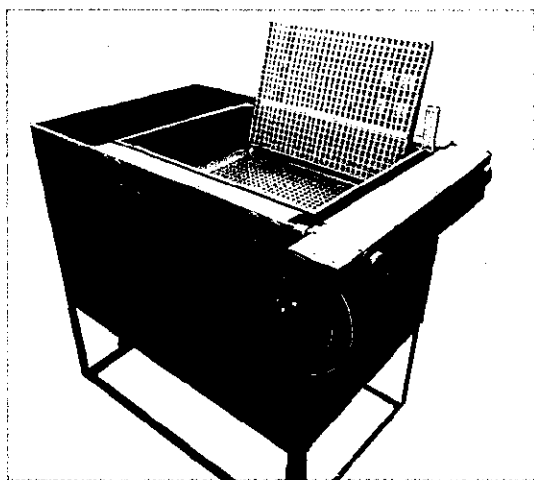
欠損部分の補修作業については、これまで一箇所ずつ手作業で行われておりましたため、技術の習得までには数年間という長い時間が必要でした。リーフキャストマシンをご導入頂く事で、機械を使いこなすための技術習得期間のみで作業が進められるため、作業効率の大幅な向上が期待出来ます。

情報提供：(株)ニチマイ

Tel 03-3815-1231

〒 113-0033東京都文京区本郷1-10-9

<http://www.nichimy.co.jp>



リーフキャストマシン

平成23年度行事予定

- ◇ 6月22日(水) 総会・第1回講習会
- ◇ 11月10日(水)・11日(金)
第2回講習会(文献史料修復技術講習会)

事務局：長野県立歴史館 文献史料課

Tel 026-274-3993

〒 387-0007 千曲市屋代260-6